

とよ・たち

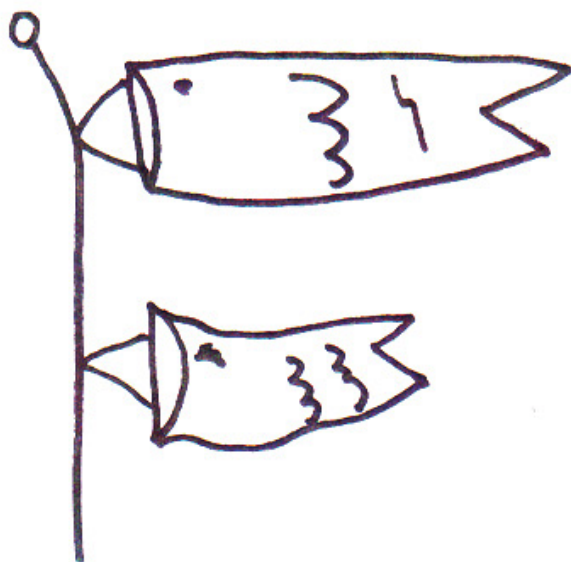
美肌通信

5月号 vol. 94

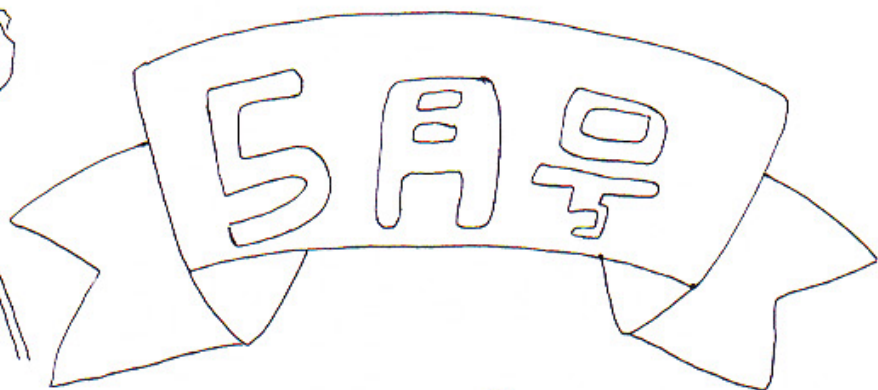


おがあさん

こいのぼり



あおい



5月のきもちの良い風の中、こいのぼりが  
元気いっぱい泳いでいます！

大好きなお母さんと一緒にかわいい女の子も  
描いてあり、とても楽しそう♪

趣味がスイミングでもぐること！

ご飯を食べることが好きで、特に  
「モロヘイヤ」と「納豆」が大好きな、

元気いっぱいの女の子が描いてください

ました😊

これからももりもり食べて大きくなってね♡

素敵な表紙をありがとうございます！

院長はじめスタッフ一同

心より感謝いたします！



「風邪ですわ」は実は難しい。

患者：2日前から微熱があり、口侯が痛く口亥が出る人です。

医師：問診後、喉の視診、胸腹部の聴診打診触診と診察が続き終了。

医師：「風邪でしょう」。

これは日常よく交わされる医師と患者のやりとりです。

しかしながら、どんな名医でも「風邪だ」と常に100%の自信を持って診断していることはないのです。

余程、癌を癌です、と診断する方が断定しやすい時も多いのです。

というのも、例えば「胃内視鏡で異物を見つけ組織を顕微鏡で調べ癌細胞が見つかれば」、癌であることを否定する医師は誰もいません。

一方、風邪はというと。その前に一般的な風邪とは、ウイルス感染によって起こりますが、これを通常の血液検査やレントゲン検査で、風邪だ」と断定する陽性所見(100%断定できる証拠となるもの)を見つける

ことはできないのです。

更に医師は悪戯に患者に侵襲が強い検査を行ったり、不必要に医療費が嵩む検査を回避しようとしています。



では、診断を告げる時の医師の本音は以下の様  
です。“8割は風邪ですが、それ以外の病気の可能  
性も2割位はある。でも一刻を争う状態ではな  
いし、患者に金銭的により負担をかけてまで詳  
しい検査をする必要はないだろう。今まで自分の経  
験や知識から考えて...。とりあえず”今日は経過  
をみることにしよう、となります。

医師が患者に全てを話すことが常に最善とは限り  
ません。前例で言えば、もしこう言ったらどうでしょう。  
今後肺炎になる可能性もありますし、肺結核の可能  
性もないとはいえません。また可能性は高くないですが、  
肺癌も否定できません。膠原病もわかりです。などと  
言ったら患者は混乱し余計な不安をかり立たせること  
になります。なぜなら風邪に似た症状は他の病気  
にもいくらでもあるからです。

逆を言うと、他の病気の可能性は低いからこそ、「風邪  
なのだ」とも言えるのです。

つまり、「風邪」に代表されるよくある病気や症状程  
診断が難しい時もあり得るのです。

院長 拝